

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 伊藤 雅之	提出日：平成 25年 2月 1日
<b>東南アジア研究所における職名： 助教</b> *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <b>助教</b> ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)：</b> マレーシア/森林研究所/アブダル・ラヒム・ニック博士 *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学 <b>研究機関</b> 企業・その他)	
<b>派遣先の研究機関等での職名：</b>	
<b>派遣期間：</b> 平成 25年 1月 11日 ~ 平成 25年 1月 18日 (派遣日数： 8日)	
<b>研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)</b> ① <b>研究・実験</b> ② <b>フィールドワーク</b> ③セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
<b>研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)</b> ① 文学 ②社会科学 ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥ <b>生物学</b> ⑦ <b>農学</b> ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
<b>派遣の概要(500~700字程度)</b> <p>マレーシア、マレー半島にあるパソ森林保護区およびそこから流出する河川の下流域において現地野外観測を行った。</p> <p>パソ森林保護区は、1970年代から継続して日本の研究者らによって、生態学的調査が行われている低地フタバガキ林の天然林サイトである。</p> <p>今回、複数の日本及び現地の水文学者、生態学者らとともに野外観測を行った。</p> <p>調査の目的は、近年の森林伐採の増加とオイルパーム・ゴム園の増加の中で、熱帯の非泥炭地を流れる河川の水質の流下過程に伴う変化がどのように起こっているかについての情報を収集することである。</p> <p>保護林内と、保護林内から流出する河川の河道に沿って、河川水の採取をおこなった。河川は最終的には、マレー半島東海岸に到達するパハン河に合流するため、パハン河本流とパハン河に流入するその他の上流河川においても試料採取を行った。</p>	
<b>事業に係る研究成果(500~700字程度)</b> <p>今回の派遣により、現地研究者から保護林内および、保護林から流出する河川の情報を得ることができた。彼らと共に林内に入り、保護林内を流れる河川から水試料を採取した。</p> <p>この河川は、マレー半島東海岸で海洋に流出するパハン河に流入する。パハン河はマレー半島最大の河川であり、その流域は、複数の州にまたがる。今回の調査は、パハン河を対象として、森林伐採やオイルパーム化などの人為活動が河川水質に与える影響を調査するための、予備調査として行った。そのため、保護林近辺および、数百キロメートル離れた、パハン河に流入する複数の河川において、上流から中流域まで水試料を採取した。</p> <p>今回のフィールドワークにより、数百キロメートルの範囲でパハン河に流入する様々な特徴を持つ河川において水試料を採取することができた。また、移動の際に、現地の人々に河川の特徴や、食用魚の養殖などについて話を聞くことができ、土地利用や河川の利用形態についての情報収集ができた。</p> <p>これらの試料は、帰国後、各種溶存物質の濃度測定を行い、インドネシアの泥炭地で採取した水試料との特徴比較を行う予定である。これにより、熱帯域の泥炭地と非泥炭地における河川の水質形成についての貴重な情報が得られることが期待できる。</p>	